# ホネホネサミット 2024@しずおか～開催御礼～

山本幸介

出展者で記念写真

去る10月19日（土）20日（日）の2日間に、静岡市清水区日の出町にある清水マリンビルにて開催された骨の祭典「ホネホネサミット2024@しずおか」は大盛況のうちに終えることができました。出展者・来場者、運営にかかわった関係者を加えると累計2000名を超える方々に支えられたホネホネサミット。静岡で初めての開催であり、私自身、このようなイベントを企画したことがなかったので、全てが手探り状態でした。今回は運営側からの視点でホネホネサミット2024@しずおかを準備から当日まで振り返ってみます。

まず準備しなければならなかったのは会場を確保することでした。大阪開催時と違って、私たち駿河ほねほね団の活動拠点であるふじのくに地球環境史ミュージアムには大きな会場がありませんので、外部の会場を借りる必要がありました。大規模なイベントに使われるような施設は、1年以上先まで予約が埋まっている事が多く会場探しは難航しましたが、幸いにも清水マリンビルの会場を使用させていただけることになりました。

会場と開催日時が決まってもやらなければいけないことは次から次へ押し寄せてきます。ブース出展の申し込み受付、招待講演の依頼、広報活動（ウェブサイトの開設、チラシデザインの制作、後援・協賛申請　他）。この際、心強かったのは、今回立ち上げた実行委員のメンバーが人材豊富であったこと。お金関係全般はNPOで経理を担当しているTさんに、デザイン制作は美大出身のSさんに、懇親会の段取りは飲食店勤務経験のあるHさんにというように、それぞれ得意分野で活躍していただきました（自分で言うのもあれですが、私のように各人を繋いで、連絡調整する人間も必要であったかと）。ひとりの人間が出来ることは限られていて、得意分野の違う人間が束になると大きな力になるということを、私は今回の経験を通して思い知らされました。

ホネサミ（ホネホネサミットの略称）を開催するにあたって、私が常に意識していたも

のがありました。それは、「ホネサミのコンセプトを守ること」。ホネサミは10年以上に渡り続いてきたイベントです。出展常連の皆さんやホネサミファンの方が会場に入って来られた時に、「懐かしいホネサミに帰ってきた。」「大好きなホネサミにまた再会できた」と感じてもらえるような内容・会場作りを心掛けました。

いよいよホネサミ当日。イベントごとではいつも雨が降り、雨男扱いされる私の力は及ばなかったようで、多少ぱらつくことはあっても概ね良い天気の中で迎えることができました。事前に人数が把握できている出展者とは異なり、来場者は当日までわからずやきもきしましたが、なんと開場待ちのお客様がいらっしゃるという嬉しい状況に。全国から集まった骨格標本製作の達人、はたまた骨の魅力を語る伝道師達全41組（主催者除く）のブースは客足が途切れることなく、主催者として胸をなでおろしました。ちなみに来場者数のカウントは入り口にて記念ポストカードをお渡しすることで実施し、19日（土）が約950名、20日（日）が約850名でした。

長かった準備期間を思えば、2日間という期間はあっという間で、楽しいひと時はすぐに過ぎ去ってしまうものです。運営というものは大変で苦労することも多いですが、私自身、準備作業も楽しめました。他の実行委員メンバーの皆さんの感想はどうだったでしょうか？ただ一つ言えるのは、ホネサミのように全国的に有名で長く続いてきたイベントを運営するのは覚悟が必要だということです。私や駿河ほねほね団のメンバーだけでしたらおそらくホネサミの開催を引き受けることはなかったと思います。FSN代表の松本さんに「一緒に静岡でホネサミやりましょう」とお声がけいただいたことに感謝していますし、自分たちの可能性を引き上げてくれる方々に出会えるというのは幸せなことでした。

来年のホネホネサミットは高知県・黒潮町での開催が決まっています。主催される皆様に感謝申し上げるとともに、骨好き・ホネサミ好きのためにホネサミが末永く続いていくことを願い、私自身ホネサミのためにこれからもお力添えさせてもらえればと思っています。

来場者をお出迎えいただき大好評だった
えぞホネ団 Sapporo ブース

招待講演者の森健人さんと
路上博物館＆旅団ブース

西岡准教授の講演
「骨のみかた、教えます」の様子